

アサヒライジング



2003年2月9日生 牝 鹿毛
父:ロイヤルタッチ
母:アサヒマーキュリー(母の父:ミナガワマンナ)
浦河・本巢一敏生産
調教師:加藤修甫(美浦)→古賀慎明(美浦)
馬主:寺内正光氏

気概に満ちた根性娘

幕開けから終盤まで物語をリードしながら、最後には主役の座を明け渡す。“惜敗する逃げ馬”は、まさにバイプレーヤー。その悔しさと歯がゆさを、アサヒライジングは幾度となく味わってきた。

阪神ジュベナイルフィリーズは5着。果敢にハナを奪って直線でも内ラチ沿いによく粘ったものの、残り50mでティエムブリキュアラに交わされてしまった。桜花賞でも好スタートを決めて先頭に立ち、直線入口で加速、好位追走組を一気に突き放して独走態勢へと移る。が、差し馬にとっては恰好の目標となってしまう、キストゥヘヴンとアドマイヤキッスとコイウタ、3頭の壮絶な追い比べに捉えられての4着に終わっている。軽快なラップを刻み、2番手以下を3馬身後ろに從えて直線へ向かったのがヴィクトリアマイル。馬場の真ん中を懸命に駆けてゴールを目指したのだが、思い切りよく内を突いたコイウタに1/2馬身屈することとなった。

もちろんアサヒライジングにも最後まで主役を務め上げたレースはある。未勝利戦は4馬身差の圧勝。続くサフラン賞ではマイペースの逃げからラストもしっかりと伸びて2連勝をマークした。アネモネステークスでは2馬身差の完封劇を披露。初の重賞制覇となったクイーンステークスは、悠々の逃走から直線入口でゲンとスピードアップ、瞬時に後続を突き放すと余裕をもって粘り込むという、この馬らしさが存分に発揮された一戦だった。

ただ、あらためてその戦績を振り返れば、アサヒライジングが単に「自分のカタチに持ち込めれば強い逃げ馬」ではなかったことに気づく。オークスは、大逃げを打ったヤマニンファビュルを2番手から早めに捕まえ、長い直線を耐えに耐えるという走り。結果は3着だったが、カワカミプリンセスに並ばれてからも抵抗するしぶとさを示した。逃げ争いを演じた3頭がハイペースを作り出した秋華賞では、4番手から力強く抜け出し、またもカワカミプリンセスを最後まで苦しめて2着を確保。エリザベス女王杯の4着も府中牝馬ステークスの2着も、好位からロングスパートを敢行、直線では必ず先頭に躍り出ている。いっぽうスタート直後に前を塞がれて中団に控えざるを得なかったのが、米遠征に挑んだアメリカン・オックス。そんな苦しい展開の中、アサヒライジングは3~4コーナーでマクリ気味に進出すると、直線でも大外を突いて鋭く伸び、後にカナダ年度代表馬に輝くアラヴェイルを競り落として2着と大健闘した。

たとえ逃げられなくともアサヒライジングは、主役であろうとする気概を決して失わなかったのである。



2007年★第55回北海道新聞杯クイーンS(JpnⅢ) GIレースでつねに好勝負を演じてきたアサヒライジングが、デビューから1年11か月、16戦目にしてようやく重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
2005. 9. 10	中山	2歳新馬	芝1600	3	1:35.9	小林淳一
10. 1	中山	2歳未勝利	芝1600	1	1:34.8	小林淳一
10. 16	東京	サフラン賞	芝1400	1	1:22.5	小林淳一
12. 4	阪神	阪神ジュベナイルフィリーズ(GI)	芝1600	5	1:37.8	小林淳一
2006. 1. 22	中山	菜の花賞	芝1600	9	1:36.3	小林淳一
2. 18	東京	デシリール杯クイーンC(GⅢ)	芝1600	2	1:35.7	小林淳一
3. 11	中山	アネモネS	芝1600	1	1:35.1	柴田善臣
4. 9	阪神	桜花賞(GI)	芝1600	4	1:34.9	柴田善臣
5. 21	東京	優駿牝馬(GI)	芝2400	3	2:26.4	柴田善臣
7. 2	米	アメリカン・オックス(G1)	芝2000	2	—	V.エスピノーザ
10. 15	京都	秋華賞(GI)	芝2000	2	1:58.3	柴田善臣
11. 12	京都	エリザベス女王杯(GI)	芝2200	4	2:11.7	柴田善臣
2007. 3. 11	中山	ローレル競馬場賞中山牝馬S(GⅢ)	芝1800	13	1:51.8	柴田善臣
4. 7	阪神	サンケイスポーツ杯阪神牝馬S(GⅡ)	芝1400	8	1:21.5	柴田善臣
5. 13	東京	ヴィクトリアマイル(JpnⅠ)	芝1600	2	1:32.6	柴田善臣
8. 12	札幌	北海道新聞杯クイーンS(JpnⅢ)	芝1800	1	1:46.7	柴田善臣
10. 14	東京	府中牝馬S(GⅢ)	芝1800	2	1:45.7	北村宏司
11. 11	京都	エリザベス女王杯(GI)	芝2200	7	2:12.8	柴田善臣
2008. 10. 19	東京	府中牝馬S(GⅢ)	芝1800	18	1:47.1	柴田善臣

※レース名は当時の表記による

2006年★第11回秋華賞(GI) 4番手追走から残り300m地点で先頭に立ったアサヒライジング(帽色・桃)だったが、外から鋭く伸びたカワカミプリンセス(帽色・緑)に交わされ2着に惜敗。

